



いずみだい

北九州市立泉台小学校 校長 平川 信乃

学校教育目標

「心豊かに たくましく生きぬく 実践力のある子どもの育成」
～徳・知・体の調和のとれた人間の育成～

目指す子ども像「あいうえお」

「あ」 あいさつをする子ども 「い」 いつもやさしくできる子ども
「う」 美しい学校にしようとする子ども
「え」 笑顔で体を動かす子ども 「お」 お話を最後まで聞く子ども

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

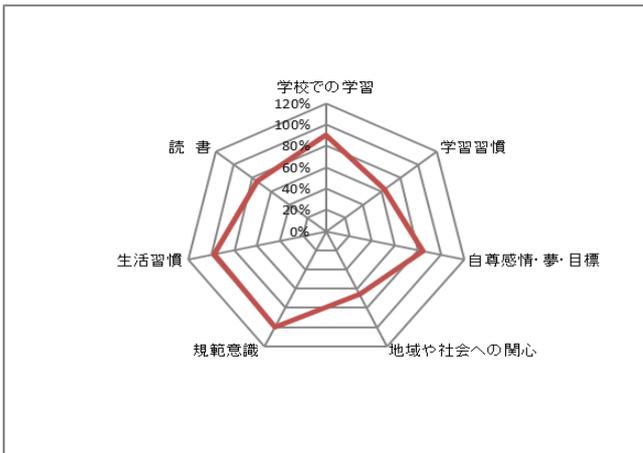
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

| 教科・区分 | 学力調査の分析（傾向や特徴） | 全国平均正答率との比較 |
|-------|--|-------------|
| 国語 | 漢字など、言葉に関する項目は全国平均を上回っています。しかし、長文の読解や記述問題などになると正答率が下がり、無答の児童が増える傾向があり、惜しまれます。基本問題や選択式の問題は正解できているので、少し難しい問題も、まず読んで取り組んでみるよう指導や声かけを継続していきます。 | 下回っている |
| 算数 | 基本的な立式や計算の正答率は、全国平均を上回っています。しかし、領域で見ると、図形に苦手意識をもつ児童が多いことが分かります。全体的に、選択式や短答式の問題には、比較的しっかり取り組めていますが、学力の個人差が大きくなっており、記述式の問題になると急に無答が増えるなど、一人一人の自信や意欲、自己肯定感を育てることが課題になっています。 | 下回っている |

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

「将来の夢や目標をもっている」児童は全国平均を大きく上回っており、「規範意識」と「生活習慣」についても、全国平均とほぼ同程度となっています。児童の心の育ちについて、家庭と学校の連携の成果を感じています。しかし、細かく分析して、「ゲームをする時間」を全国平均と比較すると、1時間未満の児童も4時間以上の児童も両方が多くっており、生活リズムの二極化が進んでいることが伺えます。また、平日の帰宅後に1時間以上学習している児童の割合を見ると、全国平均に比べ圧倒的に少なくなっています。土日同じ傾向です。宿題や自主学習の進め方について、学校と家庭が連携しながら、工夫を重ねていく必要性を感じています。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 基礎・基本を大切に授業づくりや学習規律を大切にして、一人一人の学力の定着を図ります。
- 一人一人が自信をもって学習に向かえるように、個に応じた支援を続けます。
- 「書くこと」や「読むこと」を面倒と感じる児童が多いことが気になります。授業や家庭学習の内容や方法を工夫すると同時に、学習に向かう意欲を育てていきたいと感じています。
- 「遅刻」や「不登校傾向」への対応を丁寧に行うことで、児童が、1時間目からしっかりと学習に参加できるよう支援をしていきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭学習の進め方」について、学校としてのスタンダード化や積み重ねを行い、学習習慣づくりを進めます。
- 「自主学習」の優れた取組を掲示や通信で紹介し、多くの児童に広げていきます。
- 読書について、学校では「読み聞かせ」など多くの取組を行っています。学校での読書経験を家庭や社会につなぐために、土日や長期休業中の読書を推奨したり、地域の図書館を紹介したりする活動を今後も継続します。